

保育計画(新規事業計画)成果報告書

法人名等	社会福祉法人なないろ会
施設名	いちごの森保育園
報告者（役職）	三須 亜由美（園長）
住所・連絡先	埼玉県さいたま市南区別所 6-15-16
	☎ 048-837-5935 E-mail Ichigo-mori-2022@outlook.jp

○タイトル（保育計画 or 新規事業計画）

就学支援に繋げる架け橋 医療的ケア児 しょうがい児 インクルーシブ保育
～今 私たちができること～

○主な助成備品

スズキジュニアプラス HEK-4S、ノコモ生活絵カード&イラスト DVD、パネルシアター、マウンテンボール運動遊びセット、トンネルパネルスタンダード等

1. 保育計画(新規事業計画)策定の目的

社会福祉法人なないろ会は、さいたま市で初めて『医療的ケア児とそのご家族に対する支援』が始まった法人です。いちご南保育園（さいたま市南区大谷口）を中心に、いちごの森保育園（南区別所）、いちご桜保育園（桜区田島）の3園が医療的ケア児支援（以下「医ケア」）を実施しています。経鼻経管栄養、胃ろう管理、喀痰吸引、気管切開管理など医ケアが必要な子どもとそのご家族が個々の状況やニーズに応じた支援を受けることができるよう体制を整備しています。複数名の看護師と保育士が共に医療的ケア児、ケアを必要としない子ども達、加配が必要なこども達と共に一日を過ごします。

当園の医ケア児・障がい児など成長のゆるやかな児がクラスの子ども達と限られたスペースを共有し、インクルーシブ保育活動をおこなっています。其々の発達や状態に合わせた安心・安全な保育を実施するには、工夫が必要と考えました。

そこで、5感を使う遊びや発達に合わせた教材を使い、保育対応をおこなうことで、一人ひとりの子どもに合わせた、保育や支援に繋がりたいと考えました。どの子どもに対しても有効な『スズキジュニアプラス』を取り入れたいと考えました。気管切開処置があるため発声に支障がある。発語が難しくても、また視覚的情報が優位な児にも有効な『ノコモ生活絵カード』『パネルシアター用ステージ・絵本各種』はコミュニケーションツールとして保育活動に利用できます。限られたスペースでも多様に遊びが広がる『連結マット』『レインボートンネルアーチ』『マウンテンボール運動遊びセット』『トンネルパネルセッ

ト』を組み合わせ、どの年齢の児でも特性がある子ども達も保育の5領域が広がることを期待し、計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

<スズキジュニアプラス・パネルシアター用ステージ・絵本>



大きなガラスまどから桜並木が見える0歳児クラスでは、保育士が絵本を選び音楽と並行して物語が始まります。非言語メッセージの音楽や効果音が子どもの興味を引き付け、□からの情報と鮮やかな絵を見ることで、語りかける言葉に注目していました。

医ケア児は看護師に抱っこしてもらい、身体を揺らしてお友達と一緒に楽しむ姿がみられました。



1歳児クラスではお友達との関わりで泣いていても、パネルシアターが始まるとお座りし、視線は絵本に向けられます。繰り返しの言葉（フレーズ）を聞き、何度も絵本を観ることで口ずさむ子どもが増えていました。医ケア児も看護師と一緒に参加しました。

3歳 - 4歳児クラスは物語を理解し、空想力や想像力が広がり回数を重ねるごとに、子ども達のリアクションが発展していくのも楽しい時間でした。医ケア児は、子ども達や看護師へ手話を使い物語の楽しさを共有できる活動や経験を積み、就学に向けた保育計画に取入れる計画を設定した。加配児は、自分から指差しや表情を使い物語をどのように感じているか保育士へ伝えることができている。また友達と同じ場所で、楽しい場面や悲しい場面を共有することで保育士から「次はどうなるかな?」「今、どんな気持ちだと思う?〇〇さんは?」の声掛けに、…。

<連結マット・レインボートンネルアーチ・マウンテンボール遊びセット・トンネルパネルセット>

床に設置し、どの年齢層の子どもにも、医ケア児や加配児にも転落や衝突の危険がなく、安全に全身を使い、遊びを展開できました。組み合わせは何通りもあり、保育士が主活動で何をしたいか、何を求めて保育実践するか展開できます。

子ども達はハラハラ、ドキドキしながら遊びを楽しみ、体をどのように動かせばバランスを取れるか、落ちてしまうか、敏捷性や体の使い方の判断力が学べました。順番などの友達との関わり方を身につけ、加配児や医ケア児のインクルーシブ保育活動として、自分から「やってみたい」と思うことで、活動性が誘われ、子ども自身「できるかな?」「してみようかな?」と意思が芽生え続けている様子が伺えました。そのような保育活動を通して「友達と一緒に遊ぶ喜び」の実感と、一体感が育まれていきます。更に、その児の保護者は子どもの様子を保育士から知ることによって『特性があっても、保育園で他の子ども達と一緒に過ごさせたい。楽しませたい。成長させたい。機会を作りたい』との要望が満たされ、保育園に通って良かったと、子どもの成長を楽しむことができます。



3. その成果と評価

<1歳児クラス【トンネルパネルスタンダード】>

1歳児の運動面での発達には、しゃがんだり低めの段差に上がり、次第には両足でジャンプしたりできるようになります。また、指先や手首の動きがスムーズになります。この時期は運動機能が著しく発達する時期で、全身の筋肉が発達して運動能力が向上します。また、行動範囲が広がることで好奇心も旺盛になり、様々なものに興味を示すようになります。このように保育士がある程度、繋げることでトンネルや一つの空間を子ども達の発想で様々な展開が見られました。

パネルにくり抜かれた果物や動物を見て「りんご!」「ぞうさん!」など、次第に子ども達がやり取りをして次の場所に移るという流れに発展しました。また、大きな1つの空間

を4つの仕切りで区切ると迷路のようになり、子ども達が好きな場所に進むことができる空間ができ上がり、突然友達が出てくると驚きながらも真似をして楽しむ姿が見られました。



また2歳児クラスでは、運動能力に関して筋力や体力も発達して全身運動が滑らかになり、動きがダイナミックになります。走る、跳ぶなどの運動ができるようになり、用具を用いた遊びなどにも興味が出てきます。また、階段の上り下りについても手を使わずにできるようになります。今回の遊びについても1歳児クラスとは若干異なり、子ども達がパネルと組み合わせようとする姿が見られ、保育者と一緒に作り上げる達成感を味わいました。ある程度の形になると友達を誘って声を掛け合ったり、発見を共有したり、笑顔が見られました。

これらの遊びを行い、1歳児クラスでは友達との言葉のやり取りが増えて、トンネルパネルを通して自分がイメージした場面を再現しながら遊ぶため想像力や発想力を育むことができます。また、友達と一緒に遊ぶ場合は協調性やコミュニケーションも養うことが期待されます。

2歳児クラスでは、友達とのコミュニケーションや模倣を習得し、手足や体の動かし方を身に付けることができます。そして、体を動かす運動の楽しさを知るきっかけにもなります。手足を使うこともあるので、想像力や集中力を育む際に期待されます。

4. 今後の課題と展望

遊びの展開に制限が無いように保育者が常に子ども達に遊びの幅を持たせることが課題です。長期的に見て、サーキット遊びや保育園行事で使えるよう、子ども達が常に期待が持てるような活動にしていきたいです。



以上